

図書館活動・絵本出版活動完了報告書

報告者：アフガニスタン事業調整員 山本 英里

【2006年度のアフガニスタンの概況】

2006年度のアフガニスタンは、米軍よりNATO軍、ISAF軍への指揮以降時期でもあり、当初より懸念されていた通り、アフガン国内全体で治安悪化の傾向に見舞われた。東部、南部地域では米軍による集中的な反政府武装勢力の掃討作戦が展開され、多くの市民が戦闘やテロに巻き込まれた。

【2007年度上半期のアフガニスタンの概況】

2006年に引き続き、米軍やNATO軍による反政府勢力への掃討作戦の中で市民の巻き添えが増加する中、自爆テロ攻撃の増加も懸念される。2007年7月19日に韓国人ボランティア23名が拉致（2名殺害）された事により、さらにアフガニスタンの治安不安を国際的に印象付ける形となった。一方で、2006年末には新たな教育政策5ヵ年計画が発表され、教育システムの構築に政府が乗り出している。

1-2 歴史

1919年に第三次英ア戦争を経て、英国から独立宣言をして以降、アフガニスタンは30年以上に及ぶ政情不安・紛争・内戦などの混乱に陥った。ソ連侵攻期（1979年-1992年）には、共産主義政権下、アフガニスタンの国内の統治が試みられたが、政情不安のため、ソ連が軍事介入に踏み切った。一方で、反ソ連派であったムジャヒディーンを裏で米国が支援するなど米ソ連代理戦争と発展した。¹ 1989年にジュネーブ和平協定に従ってソ連が撤退した後のアフガニスタンは、国際社会の関心を失うと同時に、国内ではムジャヒディーンたちが統一政治体制を取られないまま、内戦へと突入した。この間、アフガニスタン全土で内戦により治安は悪化し、社会基盤は壊滅状態となり、多くの人々が近隣国へ難民として逃れていった。こうした中、1996年にタリバンが全土の8割を掌握し、暫定政権としてタリバン政権を発足した。タリバン政権発足後は、一時的な治安回復もみられたが、反タリバン政府による反撃が続く一方で、女性の人権侵害をきっかけに国際社会から非難を受けた。2001年にはバーミヤンの大仏破壊や米国貿易センタービルなどの同時多発テロを引き起こしたといわれるテロ組織アル・カーイダをタリバン政権が援護しているとし、米国主導による軍事攻撃が行われた。この際難民の数は再び増加を辿り、同年末には350万人を超えたといわれている。²

2004年10月にはアフガニスタン史上初の大統領選挙が行われ、カルザイ大統領率いる政権が発足し、アフガニスタン・イスラム移行政府を引き継いだ。2004年12月には新憲法が公布された。新憲法に基づいて、2005年9月には議会選挙が行われ、議会が発足された。新政府は、治安回復、インフラ整備、ケシ栽培撲滅などに重点を置きながら、各セクターの開発への意欲を見せている。

1-3 ナンガハール州概況

ナンガハール州は、アフガニスタン首都カブールより東へ約200キロに位置する。ナンガハール州の州都であるジャララバード市は、アフガニスタンの東部4州（ナンガハール州、クナール州、ラグマン州、ニューリスターン州）の中心的な都市でもある。パキスタンと国境を接するナンガハール州は、古くから流通の町として発展してきた。21郡から成り立ち、約1,089,000人³（ただし、帰還難民など流動的な人数は含まれていない

¹ 国レベルの平和構築アセスメント（PNA）-平和構築に係る情報収集・分析-、関口正也、独立行政法人国際協力機構、（2004）p9.

² 同上

³ Afghanistan Statistical Yearbook, Transitional Islamic Government of Afghanistan, Central Statistics

とみられる)、その人口の8割はパシュトゥン人で占め、そのほかにパシャイ族やシーク教徒などが少数派として見られる。パシュトゥン人コミュニティは様々な部族で構成されており、今日でも部族内の掟により地域ごとに統率されている。ナンガハール州では、ムジャヒディーンへの対ソ連戦争、そしてその後の内乱により、多くの人々が隣国であるパキスタンへと難民として流出した。タリバンの時代には比較的治安は安定していたといわれ、一部の難民が帰還し、2001年の米軍空爆後には40万人以上の難民が帰還した報告されている。⁴ ナンガハール州内のほとんどの学校は、戦争・内乱で破壊され、数校がマドラッサ(宗教学校)として、開校した以外は閉鎖されていた。地方の村落では、教員が難民として流出したままで、小学校低学年程度しか終了していない村人が教壇に立っているところも少なくない。

パシュトゥン地域は、文化上の特徴も際立っており、女性に対しての生活上の規制が強い。女性の結婚年齢も低い上、成人女性が一人で外出することは困難である。女性の社会進出は、市内ではほとんど皆無に等しい。タリバン時代には一切禁止された女性の社会進出であるが、現在では、教員や医者、看護婦など一部の職種においては認められている。

軍閥の解体や民兵の武装解除と社会復帰はナンガハール州の治安を左右するものである。また、旱魃の激しいナンガハール州で唯一換金作物であった芥子栽培は軍閥の資金源とも言われ、その撲滅が最優先課題である。教育の復興は、治安の安定のためにもニーズが高い。

【対象地域と受益者】

アフガニスタン国ナンガハール県ジャララバード市、ゴシュタ郡(ジャララバードより東北約30KM、バティコット郡(ジャララバードより東北約45KM)、ダライヌール郡(ジャララバードより西北約45KM)、ラル・プール郡(ジャララバードより東北約80KM), Goshta District, Bati Kot District, Dara-I-Noor District, Lal Pur District

直接的にはワークショップを受講する15校314名の教員及び対象校の児童14194名、子ども図書館に来館する子どもたち年間推定24000名(2005年度は、27,981名来館)。

【アフガニスタン国ナンガハール県5郡15校の教員及び児童数】

No	学校名	郡名	教員数	児童数
1	Hameed Baba High School	Goshta	57	1685
2	Sarband Primary School	Goshta	14	596
3	Ahamady Primary School	Goshta	14	677
4	Bari Kab School	Bati Kot	24	1230
5	Lacha Pur Primary School	Bati Kot	17	1435
6	Takia Garay Primary School	Bati Kot	16	710
7	Chardihi Girls Primary	Bati Kot	16	989

office (2003)

⁴ UNHCR 発表 (2003)

	School			
8	Chardihi Boys Primary School	Bati Kot	46	2226
9	Zarbacha Primary School	Kot	15	820
10	Qala-I-Shahi Boys Primary School	Dara-I-Noor	21	657
11	Qala-I-Shahi Girls Boys Primary School	Dara-I-Noor	14	437
12	Amla Primary School	Dara-I-Noor	20	983
13	Dodarak Primary School	Dara-I-Noor	7	354
14	Chawkinar Primary School	Lal Pur	17	983
15	Gul Dak Primary School	Lal Pur	16	412
合計			314	14194

【プロジェクト目標】

事業実施校において、教員により図書館活動が行われる。

【図書館事業活動報告】

1. **事業概要**

長年の戦争により資格を持った教員が数%に過ぎず、授業の質が低いアフガニスタン東部地域ナンガハール県5郡（コット郡、バティコット郡、ゴシュタ郡、ラル・プール郡、ダライヌール郡）15校、314名の教員、14,194名の児童を対象に学校教育の質の改善を図る目的で絵本の普及活動を3年間を通して行ってきた3年目の活動である。

活動内容は以下の通りである。

1) 教員を対象とした図書活動ワークショップ

ジャララバード市内教員養成センターにて5日間に渡って図書活動に関するワークショップを当会スタッフ及び教育局選抜職員によって行う。

ワークショップの参加人数など添付資料参照。

2) 移動図書箱活動

約50冊の図書を詰めた図書箱による移動図書箱活動を当会スタッフ及び教育局職員がつきに一度対象校にて行う。1校約1時間程度、おはなし読み聞かせ、ゲーム、紙芝居など、子どもたちを対象に行うと同時に学校での図書室活動に関してのモニタリング及び教員たちへの指導を行う。事業実施期間中は、治安悪化などに見舞われたが年間52回（うち対象校である15校の期間中合計は23回）のプログラムを行った。

*訪問日・回数は添付資料参照

3) 子ども図書館の運営

ジャララバード市チャライマラストーン地区に一軒家を借り、子ども図書館として開設した。常設図書は絵本や本など約2000冊。小学生を主な対象者とし、8時半から15時半（昼時は1時間閉館）の間好きなときに訪れることができる。ジャララバード市内のほとんどの学校が2シフト制のため、学校が午前と午後しかない。よって、学校に行かない時間に文庫を利用する子どもたちが多く。文庫では、おはなし読み聞かせやゲーム遊びなどの活動が毎日当会スタッフおよびナンガハール州情報文化局職員によって行われる。また、工作や宗教教育・識字教育などを行っている。子どもの数や年齢はばらばらのため、担当スタッフは対象児に合わせて活動を構成しなければならない。2005年度および今後のもうひとつの目標は生活が厳しい子どもたち（ストリートチルドレン）や学校に行けない（行かない）子どもたちが文庫に来られるような活動を計画した。今後は、識字教室や技能訓練など楽しみながら行える活動を取り入れて、そういった子どもたちが文庫を訪れるようにしたい。また、栄養供給や衣料供与など一時保護的な役割も担っていきたいと考えている。

2006年に開始した新たな事業は、学校へ行けないもしくは行かない子ども達、学校へは行っているが家庭の事情などで休みがちであり、学力低下が見られる子ども達を対象に特別教室を開催した。季節労働者の子ども達も受け入れた為、人数はばらついたが、平均10人から15人/日の子ども達が参加した。2006年は総計で27,981名の子どもたちが来館した。

【子ども図書館月例活動一覧】

2006年

11月：平和の日

111名の子どもたちが参加をし、平和に関する活動を行った。スタッフによる人形劇の後、子どもたちは菓子を配られ、平和の象徴である白い鳩を放した。

12月：イードのため月例活動はなし

2007年

4月：お誕生会

1月～4月に誕生した子どもたちを対象にお誕生会を行った。当日は約100名の子どもたちが参加し、ゲームなどを行った後、ケーキを配布した。

5月：母親会

母親会では、子どもたちが普段活動している詩の朗読や踊り、読み聞かせなどを母親たちに披露した。11人の母親と80人の子どもたちがこの活動に参加した。

6月：洗面場所開放

夏の暑さは多くの子どもたちがあせもなどに悩まされている。各家に洗面所がない子どもたちも多く、汗をかいてもそのまま放置されていることが多く、皮膚に影響を与えている。また、多くの子どもたちが路上の下水などで体を洗うため、悪臭が漂う。そのため、夏季においては子ども図書館の洗面場を開放し、子どもたちに洗い方などの指導を行うとしている。

7月：子どもの日

子どもの日を祝う日として子どもたちが中心になって考えた歌やゲーム、ドラマなどのプログラムが開催された。約130名の子どもが参加した。

8月：お誕生会

5～8月に誕生した子どもたちを対象にお誕生会を行った。約145名の子どもたちが参加した。

4) 図書の配布

ワークショップ終了後に各学校へと図書の配布を行った。当初300冊の予定であったが、購入が不可能なものもあり、各学校287冊ずつ配布を行った。

* 添付資料参照

【補足】絵本出版

当会で自己資金を集め、絵本の出版活動を行った。各タイトル初のダリ語とパシュトン語2語（各600冊）の印刷を無事に終了した。子ども図書館及び、ワークショップ開催後に対象校へ、また他の孤児施設などへ供与した。

『おはなし選定の基準』

a. 言語、b. アフガン文化に沿っている、c. 政治的でない、d. 攻撃意欲をそそるものではない、e. 平和を推進するもの、f. 真摯で教育を推進するもの

『2006度の選択絵本』

No	絵本のタイトル	備考
1	歴史に残る女性たち	伝記
2	松の木にたすけられたとり	民話
3	バダミ・ノコル	生活
4	ライラとグルラング	おはなし
5	月と呼ばれた少女	民話

(各1200冊)

『2006度の選択紙芝居』

No	紙芝居のタイトル	備考
1	外で遊ぶときには	生活
2	銀を見つけたアタル	おはなし

(各400セット)

『2007年度の選択絵本』

No	絵本のタイトル	備考
1	おかあさん	民話
2	ろばとうま	民話
3	タカと雄鶏	民話
4	いやしいライオン	民話
5	独立記念日(8月19日)	歴史
6	農民ときつね	民話

(各1200冊)

『2007度の選択紙芝居』

No	紙芝居のタイトル	備考
1	賢い裁判官	おはなし
2	森林	環境

(各400セット)

5) 教育局職員の育成

教育局職員の育成を目的として、教育局職員1名を移動図書館活動へ当会スタッフと共に行った。また、教育局職員4名（うち1名は、移動図書館活動担当職員）が図書館活動専門家のワークショップに参加をした。当会で活動している絵本出版活動においては、出版委員会が構成されており現在8名ほどの委員より協力を得ている。この出版委員会に教育局職員も参加している。

6) 図書館活動専門家の派遣

日本の図書館活動の専門家1名を2週間程度、現地に派遣し、図書館活動全般にわたって指導をする。やべみつり氏(紙芝居専門家、画家)、佐藤涼子氏(図書館専門家)氏を3月8日より2週間招き、SVAスタッフ及びナンガハール州教育局、情報文化局の職員に対して図書館についてのワークショップを行った。合計で、12名が参加した。

【参加者】

1. ワヒド・ザマニ：SVA 副所長
2. ハニフ・サフィ：SVA 図書館事業調整員アシスタント
3. バワール：SVA 図書館事業スタッフ
4. ドースト・ムハムッド：SVA 図書館事業スタッフ
5. ヌール・ハッサン：SVA 図書館事業スタッフ
6. ジャミラ：SVA 図書館事業スタッフ
7. ハシナ：SVA 子ども図書館ボランティアスタッフ
8. サフィウラ：SVA 子ども図書館ボランティアスタッフ
9. ワヒド：SVA 子ども図書館ボランティアスタッフ
10. サイド：情報文化局スタッフ
11. ハジ・ザエル：教育局スタッフ
12. アブダル：教育局スタッフ

【添付資料】

- ・ 活動報告写真